



待合室：四万十ヒノキ材の家具 + 四万十ヒノキの特色である赤みを活用した間接照明で、人々を包み込む安全安心な駅空間を演出



利用者が少ないからこそ、実現可能な新しい駅のサービスとして、勉強機 + 肌が美しく見えるベンチを提供



未来の鉄道利用者である子どもにも、四万十ヒノキのベンチは良い思い出になるだろう



街の第一印象を決めるコンコースも、すべて木材を使用



プラットフォーム：駅の改札口を廃止し、プラットフォームに捨てデッキ材を敷き詰め、待合室の床面積を実質的に拡大し、駅ならではの見送る/出会う空間を演出した

## 土佐くろしお鉄道 中村駅 リノベーション

direction+designed by nextstations

高知県西南部・四万十川の畔にある、築40年のRC造駅舎を持つ鉄道駅のリノベーションである。公共交通や地方都市を取り巻く現在の状況を鑑み、次の時代の身の丈に合ったデザインを、利用者の視点で目指した。限られた工期と予算の中で、建築面積を増やさずに実質的な空間を拡大するため、改札口を撤去し、プラットフォームの一部を待合スペースに改装した。公共の空間だからこそ、最高級の四万十ヒノキをバランス良く使用している。駅では見知らぬ他人同士が高密度に集い、「見る / 見られる」関係が保たれている。利用者の肌色がより美しく見える照明の演出を、四万十ヒノキで施し、この中村駅にしかない空間の価値を創造した。地場の誇りである四万十ヒノキの新しい使い方が、地方都市の公共交通に新しい戦略を与えた。

